

## 第6回菊池市総合計画策定審議会 要約記録

期日／平成27年1月29日(木)

午後1時30分～

場所／菊池市役所 本庁3階大会議室

### 1 開会

### 2 会長挨拶

### 3 議事

1) 第2次菊池市総合計画パブリック・コメントの結果と市の考え方(案)について

2) 第2次菊池市総合計画(案)について

3) 答申書(案)の内容について

4) その他

### 4 答申

### 5 閉会

## 議事①パブリック・コメントの結果と市の考え方について

事務局より総合計画パブリック・コメントの結果について、意見の概要及び市の考え方を説明した後、出席委員全員から全般的な感想、施策の内容などについての意見をいただいた。

### 結論及び合意内容

- ・意見 13 件（個人 3 名、団体 1 団体）という結果について、市民の意見を反映するには少ない。今後、パブリック・コメントの手法などを検討する必要がある。
- ・市の考え方について委員の承認いただいたので、2 月中旬にホームページで公表する。

## 議事②第 2 次総合計画案について

事務局より成果指標の変更箇所の説明を行い、全般的な感想、意見をいただいた。

### 結論及び合意内容

- ・計画案については、委員みなさんのコメントから判断して、概ね了承をいただいた。

### 主な発言や意見、アイデアなど

- 市民ワークショップの結果が分かりやすくまとまっていて嬉しかった。地域を良くしていきたいと思っているので、市民と取り組む企画を考えてほしい。
- 写真イラストや用語説明があって分かりやすくて良かった。
- 市の政策会議のイメージとかけ離れていた。  
策定審議会ですとまとめた計画自体に不満はないが、実行計画書のように思える。もっと大きな視点、目標で取り組んでみてはどうか。
- 35の施策について、よく理解できる。担当者の入れ替わりが多いせいか、各課で完全な業務ができているか疑問に思う。
- パブリック・コメントの結果が13件(個人3名、団体1)というのは少ないのではないかと。パブリック・コメントのあり方に課題がある。計画の評価は成果指標の数値よりも、一般の市民の声(満足度)が大切だと思う。
- 計画書は見やすくなった。菊池基準は農業だけではなく、菊池らしさにこだわった基準を出さないといけない。菊池には埋もれている資源がある。それを観光、商工業に活かすためには伝統文化を発掘するべき。
- 市民の声を聴くパブリック・コメントやアンケートのあり方を考えないといけないと思った。行

政にできる部分、市民にできる部分を認識し、市民はお願いするだけでなく、自分に何ができるかを考えることが必要だと思う。

○ 地域福祉の充実について、人との繋がりが大切だと思う。しかし、行政イベントの話をして無関心な人が多い。また、市民はいろいろな要求をするものの「市長と語る会」等の公聴の場には、行く気になれないと話しをされる。市民は要求と行動のバランスがとれていないと感じた。

○ 計画の内容はよくできていると感じた。しかし、市民の声を広く聴くパブリック・コメントは、ネット公開をしたというアリバイづくりではなく、あらゆる手段を講じて市民の声を拾い上げて欲しい。

○ 菊池基準の難しい点は、基準ができると市全体の農業水準は上がるが、農家個々のやり方やこだわりが薄れることではないか。

○ 施策の実行にあたっては、行政と市民の「協働」と言うのは簡単だが、市民が参加すべき責任を負っている。

○ 行政は異動があるのでスペシャリストがいない。地域おこし協力隊が総合計画の施策とマッチして、各部門でリーダーシップをとってもらうことで計画の運営が図れる。

○ 分かりやすく素晴らしい計画ができたと思う。しかし、目標値について高い目標を立てるのはいいことだが、根拠があり達成できる数値が良かったのではないだろうか。

○ 関係課と何度もヒアリングを実施して積み上げられた計画書となっているので、特に異論はない。保健センターの確保に向けた検討を行なうとあったが、県北で保健センターがないのは菊池市だけ。

○ パブリック・コメントについては、60代以上の市民がパソコン、ネットを使うのは難しいので、ネットを使った周知方法以外にも検討してほしい。計画内容はよくできている。

○ 立派な計画書になったと思う。あとは、取り組みをどう活かすかが課題。

私の地域は域学連携事業に取り組んでおり、個人と地域のコラボレーションの展開を期待している。

○ 商工の活性について、商品券、軽トラ朝市等への支援が明確になったので良かった。

人を呼び込む仕掛けに対する取り組みが、景観づくりに限定しており、中心市街地の活性化の方針を示して欲しかった。中心市街地活性化計画について、山鹿市は国の認定を受け進めているが、菊池市は全く進んでいない。

魅力を創出するためには、温泉街と商店街が完全に分離しているのが良くない。

- 観光戦略のところでは 地域の魅力や人づくり、歴史のアピール等が述べられているので、それが商店街の魅力アップに繋がるのかもしれない。
- 用語説明も付いて分かりやすくなった。  
パブリック・コメント自体を知らない人が多い。市民自身をもっと関心を持つことも大事。  
PTAではデータ放送「デタボン」を活用しているが、テレビという身近な周知方法があるので、もっと普及させる必要がある。
- 市民協働を進めるにあたっては、ワークショップなど市民を巻き込むやり方について、これから工夫が必要であり今後の課題である。
- パブリック・コメントのようなカタカナ行政用語が氾濫し、地域が使う言葉感覚から離れている。
- 行政から地域につなげていくには、市民代表の方々にネットワークを利用して、市民協働を深める具体的な試みをしてほしい。

(計画書(案)の内容について、委員の賛同を確認)

### 議事③答申書(案)の内容について

(事務局から答申(案)の内容を説明、委員の了承をいただく)

#### ●会長から市長へ答申

##### (市長からお礼の言葉)

6回の長きにわたりご審議いただきありがとうございました。地域をめぐる状況は厳しく、少子高齢化の状況であるが、このような時代だからこそ菊池の特徴を踏まえたランドデザインを描き、市民と共有して進めていくことが重要です。そこで、この総合計画が確かな指針となるものと思います。取り組みを明確にして、確実にフォローアップしていきます。市民皆様のアドバイスを頂きながら、ふるさと菊池市を後世の世代に引き継げるまちにしていきたいと考えています。

##### (市長との意見交換)

- 学校の部活動が社会体育へ移行するが、子供たちの運動不足やゲームに走るなど懸念する。各地域で運動できる環境整備をお願いします。

○ 合併する際、各地区の駆け引きの議論が長く、全体の将来を論議する機会が少なかった。新市建設計画の流れで、第1次総合計画が策定された経緯があるので、その枠組みから抜けて新市にとって必要な事業を展開すべき。中心市街地活性化計画や市民広場再整備も以前の枠組みに縛られているので、市長がフリーハンドで取り組んで頂きたい。

○ 私の地区では域学連携事業に取り組んでいるが、総合計画のミニ版として活動しており、行政からの支援をお願いしたい。

国が「地方創生」を推進する中で、菊池としては農業の展開を軸にすれば可能性が広がると思う。行政とJAは連携を強化し、国県の補助事業を推進し、農業を支えていただきたい。

○ 立派な総合計画の案ができたので、確実な実行をお願いする。

○ 総合計画の策定審議会が終わったので、今後は計画を見守る評価委員会で進捗を管理すること。

○ 少子高齢化が進み、学校の統合化なども噂されているなかで、交通手段の確保ができず行事への参加が難しくなっている。市全域の地域の交通手段について改善を進めてほしい。

○ 総合計画の成果を一年ごとに公表すること。パブリック・コメントはネットだけでなく、紙媒体で各組織の会員にコメントを流してもらうなど取り組み方を工夫し、コメント量を増やすべき。行政だけではなく、市民もしっかり考えていくべきこと。

○ 社会教育の面で言えば、合併前はいろんな団体があり、色んなイベントに参加する人が多かったが、役員の交代も難しく衰退している。

団体の自立も大事であるが、行政の関わりや支援が少なくなったことで、会員のやる気が失せている。個々にはボランティア精神は残っているので団体への支援を強化してほしい。

また、高齢になっても地域の交流があれば、心の安定を保つことができる。

○ 計画内に市民協働を学ぶ機会や地域コミュニティに関与し活動を理解するとあるが、女性の参加が少ない。地域で活動しているNPO等の団体情報を把握し、活用していただきたい。

「菊池基準」とは、農業だけではないと思っている。各課のなかで菊池基準(菊池らしさ)を明確にし、菊池市にしか無いもの、昔から伝承された伝統文化などを考えていただきたい。

○ 市民との協働も大事だが、企業との協働も大事である。どの自治体も、一般企業を遠ざける傾向にある。民間企業は知識、技能が優れているので、企業との協働により企業が提供する社会資源を活用すべきである。

○ 菊池市が進める観光戦略と家畜の防疫は背中あわせで、人の出入りが多いほど感染のり

スクが高まる。防疫対策について、総合計画に盛り込まれてよかった。

○ 退職した人は社会に出て恩返しをするべきと思う。

菊池市の観光面の問題は、土産屋の開店時間が遅く、閉店時間が早いため、買うところがないと聞く。県の物産館を誘致して観光ルートを開発してはどうか。

○ 10年後を見据えた菊池を描くための大きな政策・構想をつくる政策審議会と思ったら、各課の実行計画書の審議で残念だった。

現在、合志市にスマートインターができていますが、将来の道州制を見込んで4車線の幹線道路の整備を県へ提案して欲しい。

自分の意見を率直に言える方を入れて議論すること。仲良し会合では、良い案は出てこない。

○ 市政にはあまり関心はなかったが、審議会に参加するようになり、興味を持つようになった。ほとんどの市民が市政、行事に関心を持っていない。

時間がないと思っていたが、工夫すれば時間を捻出することができ、参加できて良かった。

○ どの施策にも共通することは、目、耳が不自由な人であっても、いかに情報を伝えることができるかだと思う。人への伝え方について、市民を入れた情報伝達を考える会を企画して欲しい。

施策を展開する上で、市民の声を聞く場面があると思うが、区の集会等で取りまとめる機会を設け、多くの意見を出す仕組みによって、情報の共有が図られる。

総合支所ごとの地域情報誌の活用が有効と思うので、検討していただきたい。

○ 市民参加の標準的な取り組みは、菊池市でも実施されているが、しっかり機能していない。

今後の行政の取り組みは市民とのネットワーク型になり、活発な市民活動を行政が応援する形になるだろう。

試行錯誤しながら菊池市の特性にあった方法を見出すことが必要になってくる。失敗や間違いを恐れず、市役所内で一丸となって取り組めば、計画期間内で何か変わってくる。

成果指標を達成するだけでなく、指標を超えるくらいの工夫が行われることを期待する。

市長)お一人お一人の意見に、なるほどという点がたくさんあった。

答申を熟読したうえで、さらに具体的に前へ進めていきたい。

これで終わりではなく、さまざまなフォローアップの部分についても、みなさんのご意見をこれからもいただきたい。

以上